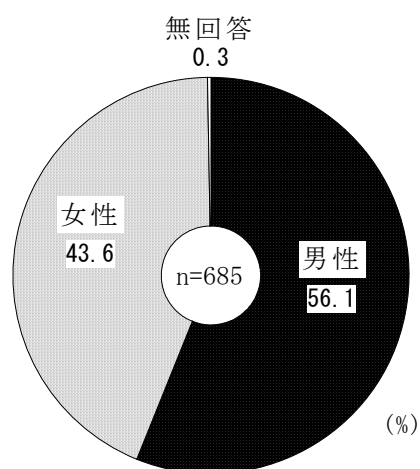


## 第3章 窓口調査結果

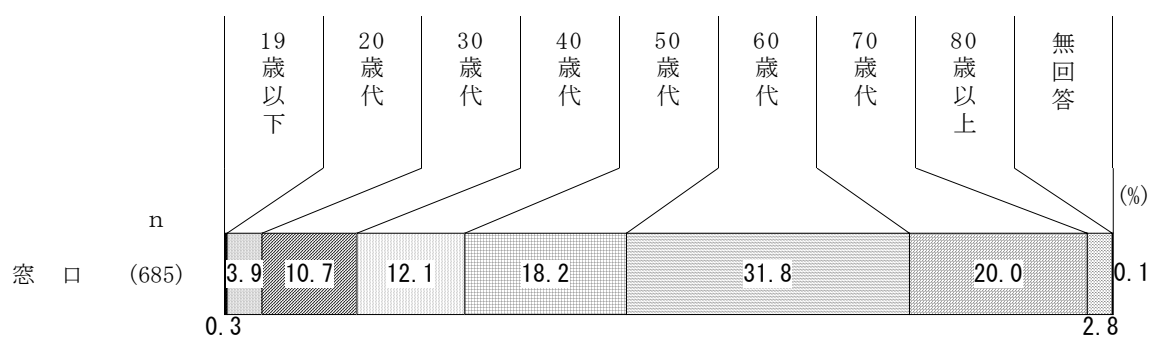


## 回答者の属性

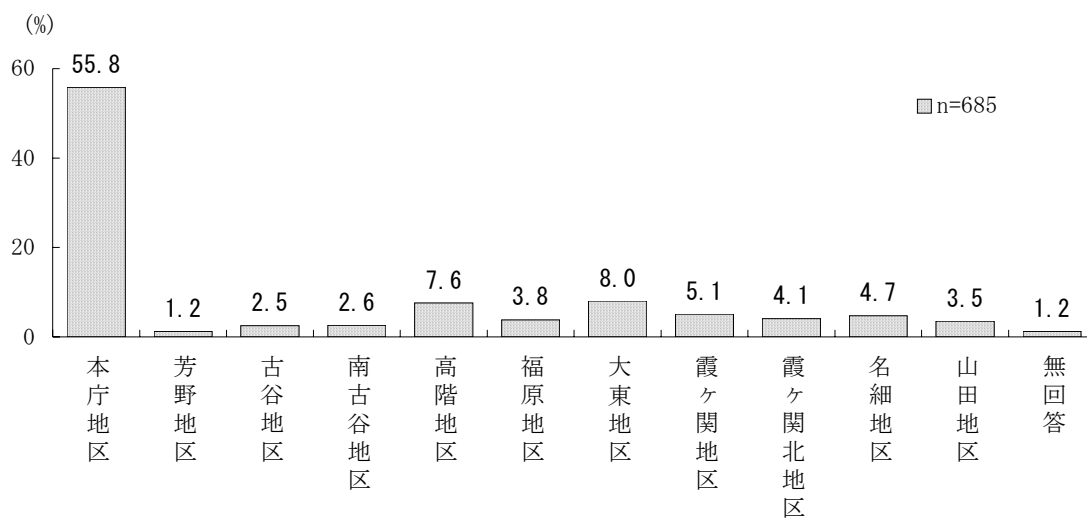
### ◆性別◆



### ◆年齢◆



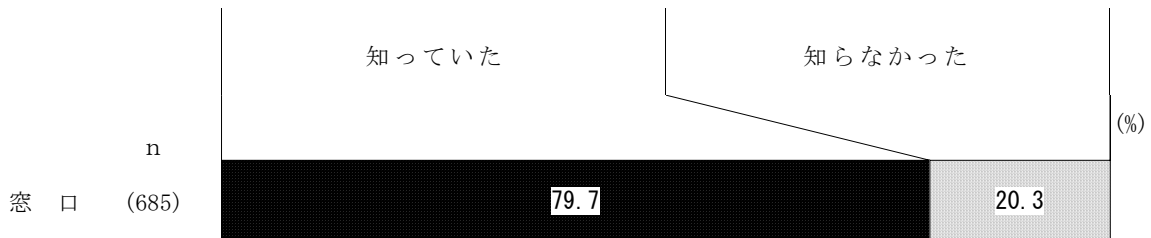
### ◆居住地区◆



# 1. 市庁舎を移転する考えに関する認知度

問4 このアンケートより前に、市庁舎を移転する考えがあることをご存知でしたか。 (○は1つ)

図表 1 - 1

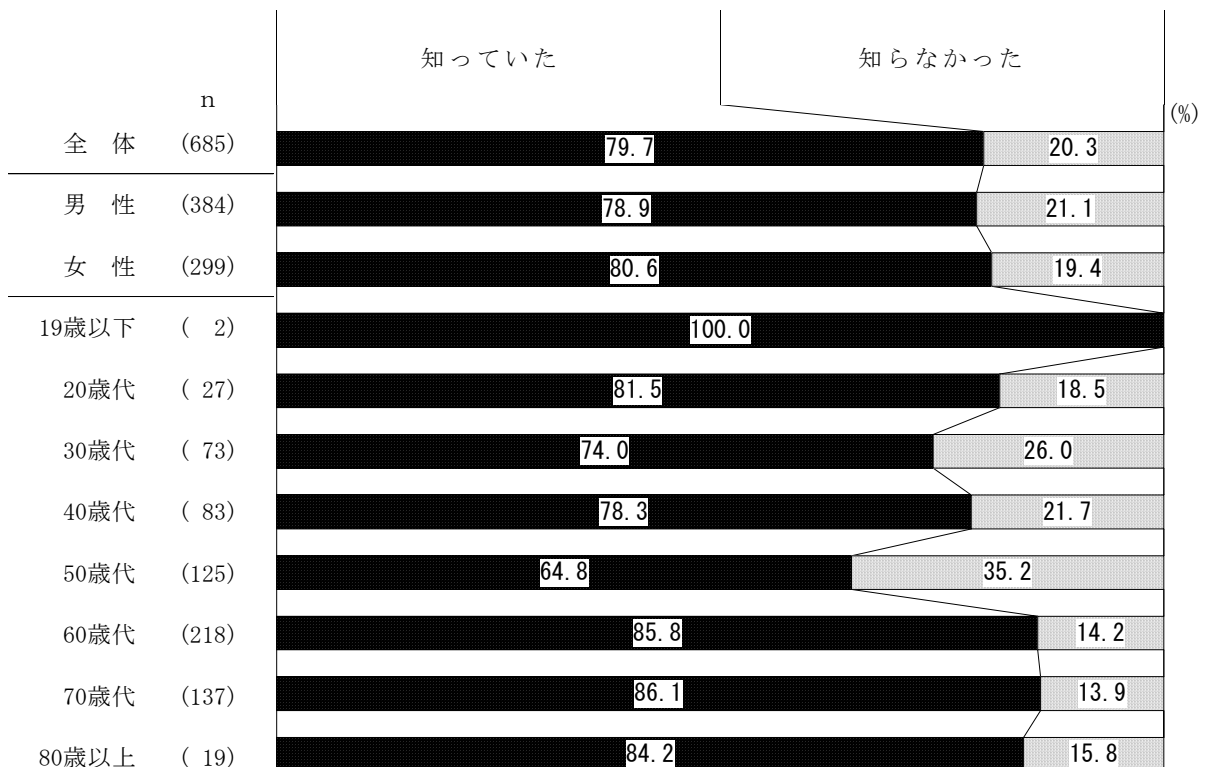


市庁舎を移転する考えに関する認知度は「知っていた」が79.7%、「知らなかった」は20.3%となっている (図表 1 - 1)。

性別では、特に大きな差はみられない。

年齢別でみると、いずれの年代も「知っていた」が多数を占め、60歳代以降では8割台、30歳代と40歳代では7割台を占めている。「知らなかった」は50歳代で35.2%と比較的多くなっている (図表 1 - 2)。

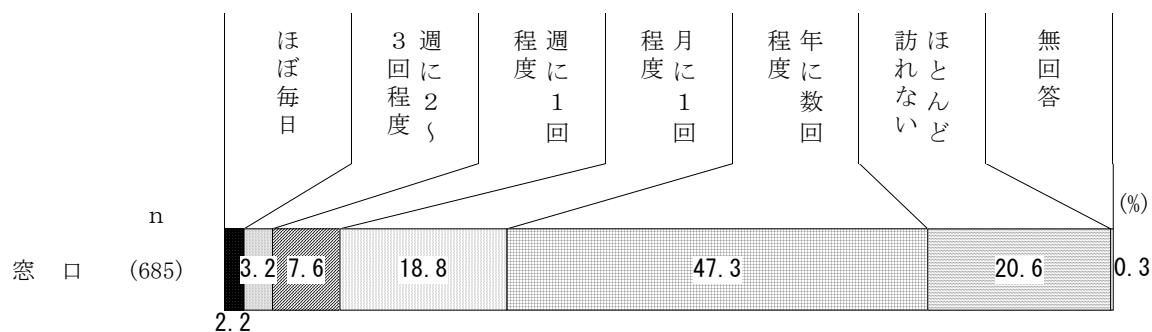
図表 1 - 2 性別、年齢別 市庁舎を移転する考えに関する認知度



## 2. 最近1年間での市庁舎の利用頻度

問5 最近、概ね1年間に、どのくらいの頻度で市庁舎に訪れましたか。  
(○は1つ)

図表2-1

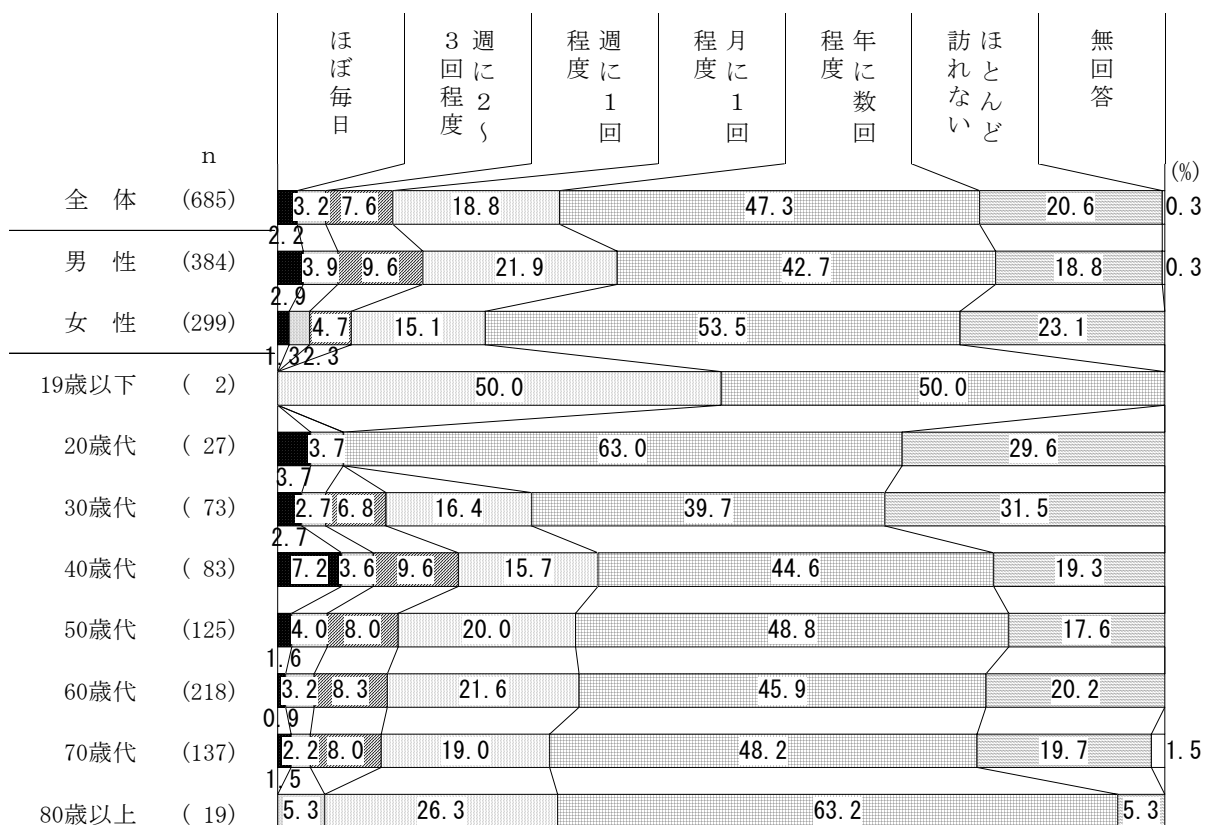


最近、1年間に市庁舎を訪れた回数は、「年に数回程度」が47.3%で、「月に1回程度」は18.8%、「週に1回程度」から「ほぼ毎日」の人は13.0%となっている。一方、「ほとんど訪れない」という人も20.6%となっている（図表2-1）。

性別で見ると、「週に1回程度」や「月に1回程度」は男性が女性を上回っており、男性の方が利用頻度が高い。一方、女性では「年に数回程度」が53.5%と多くなっている。

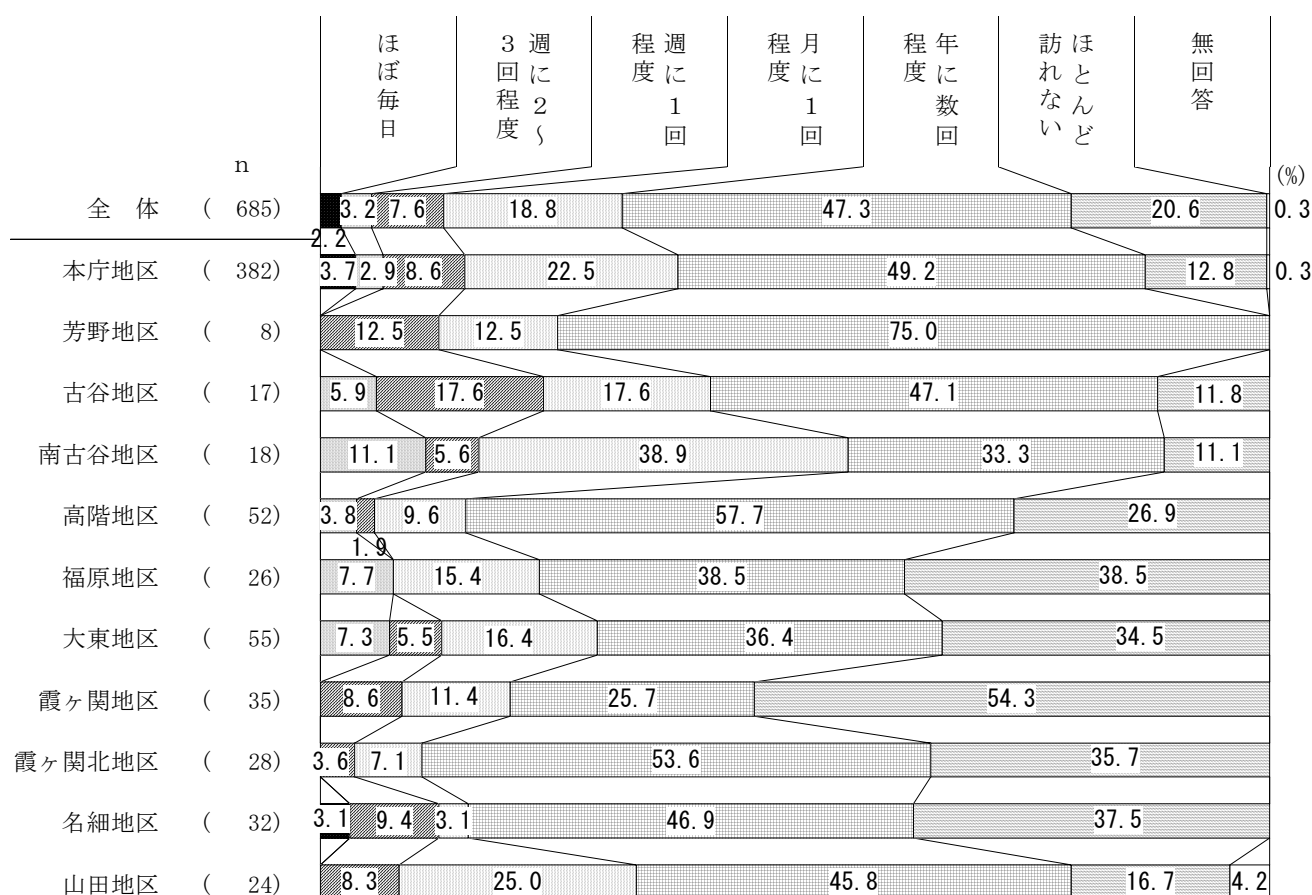
年齢別で見ると、各年代で「年に数回程度」が多く、40歳代から70歳代では4割台を占めている。また、50歳代から70歳代は「月に1回程度」が2割前後と比較的多い。一方、「ほとんど訪れない」は30歳代で3割強と比較的多くなっている（図表2-2）。

図表2-2 性別、年齢別 最近1年間での市庁舎の利用頻度



地区別で見ると、全体的に回答者数が少ないため参考程度となるが、ほとんどの地区で「年に数回程度」が多く、高階地区、霞ヶ関北地区で半数以上となっている。また、「月に1回程度」は南古谷地区で4割弱、山田地区、本庁地区で2割台と比較的多く、古谷地区や芳野地区では「週に1回程度」が1割台と他の地区と比べて利用頻度が多くなっている。一方、「ほとんど訪れない」は霞ヶ関地区で半数以上、福原地区、名細地区、霞ヶ関北地区、大東地区でも3割台と比較的多くなっている(図表2-3)。

図表2-3 地区別 最近1年間での市庁舎の利用頻度

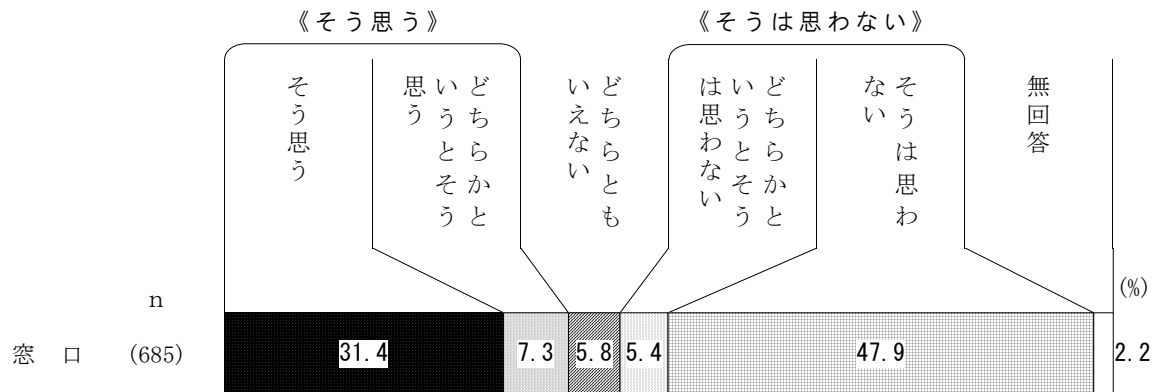


### 3. 新しい市庁舎の場所は川越駅西口がよいと思うか

問6 新しい市庁舎の場所は川越駅西口がよいと思いますか。

(○は1つ)

図表 3 - 1



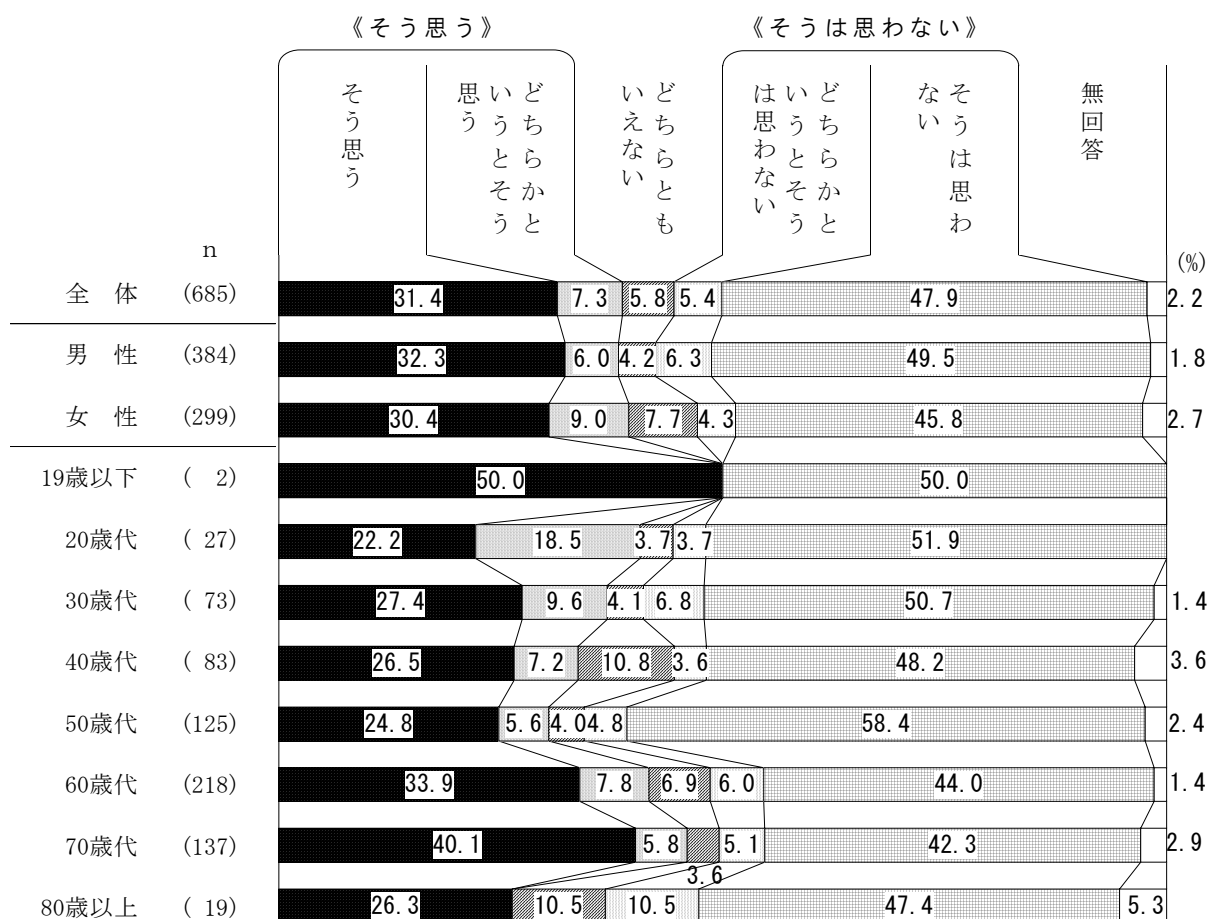
新しい市庁舎の場所は川越駅西口がよいと思うかということに「そう思う」は31.4%、「どちらかというと思う」は7.3%となっており、両者をあわせた《そう思う》は38.7%となっている。一方、「そうは思わない」(47.9%)と「どちらかというと思うは思わない」(5.4%)をあわせた《そうは思わない》は53.3%となっている(図表3-1)。



性別で見ると、《そうは思わない》は男性（55.8%）が女性（50.1%）を6ポイント上回っている。

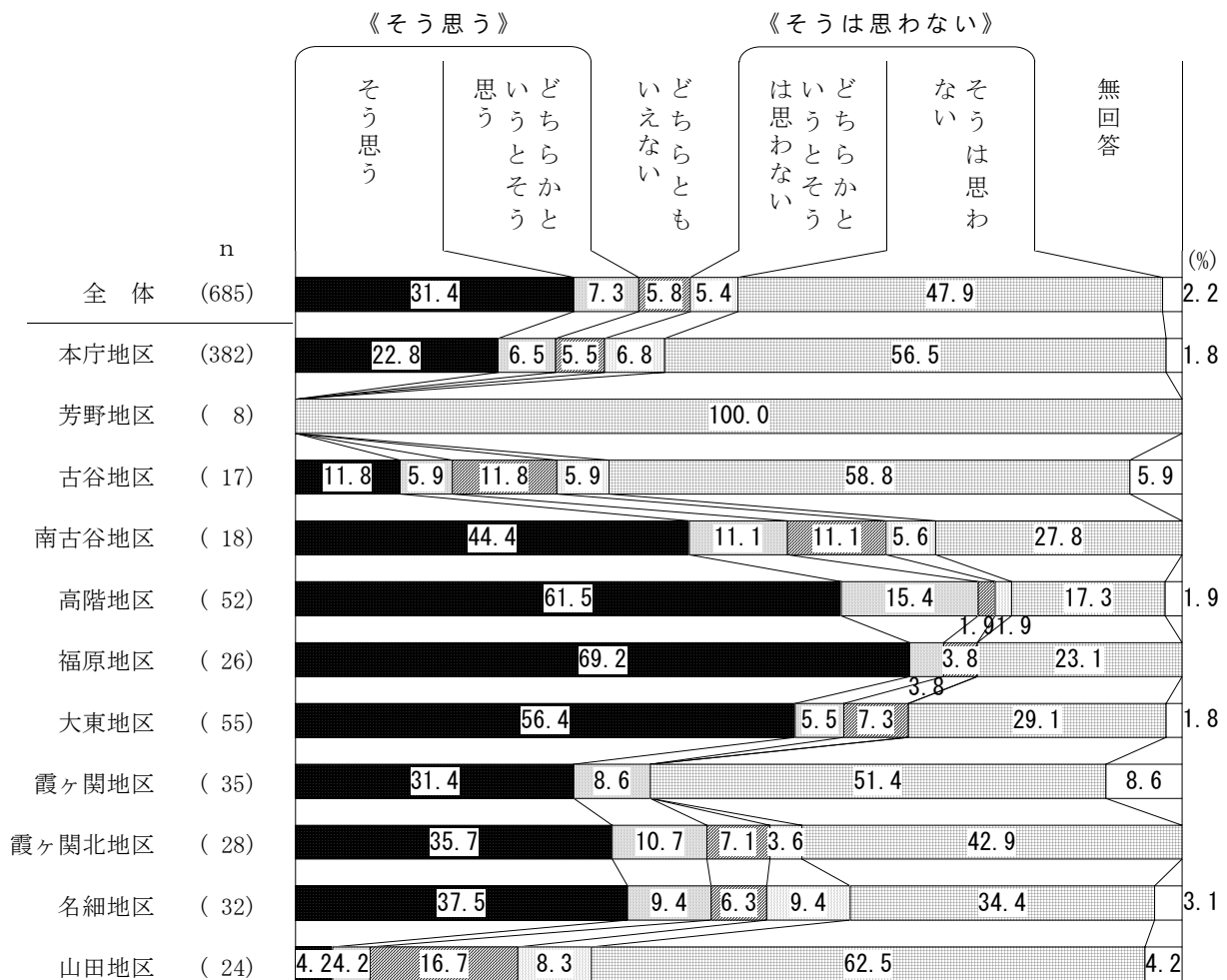
年齢別で見ると、いずれの年代でも《そうは思わない》が《そう思う》を上回っており、50歳代と80歳以上では30ポイント以上の開きがみられる（図表3-2）。

図表3-2 性別、年齢別 新しい市庁舎の場所は川越駅西口がよいと思うか



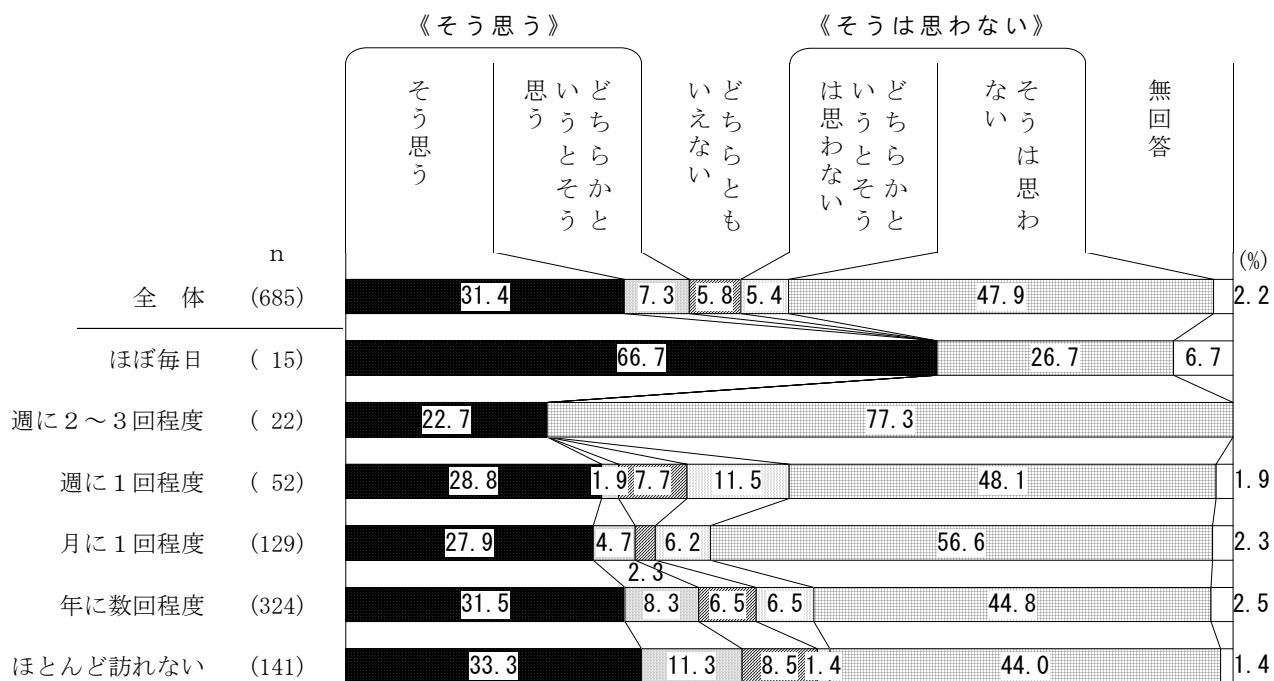
地区別でみると、全体的に回答者数が少ないため参考程度となるが、本庁地区をはじめ、山田地区、古谷地区、霞ヶ関地区では《そうは思わない》が多く、高階地区、福原地区、大東地区、南古谷地区では《そう思う》が多い。また、霞ヶ関北地区、名細地区は《そう思う》と《そうは思わない》が2分している（図表3-3）。

図表3-3 地区別 新しい市庁舎の場所は川越駅西口がよいと思うか



市庁舎の利用頻度別でみると、《そうは思わない》は“週に1回程度”や“月に1回程度”の層で比較的多くなっている。一方、“ほとんど訪れない”では《そう思う》と《そうは思わない》がほぼ2分している（図表3-4）。

図表3-4 利用頻度別 新しい市庁舎の場所は川越駅西口がよいと思うか

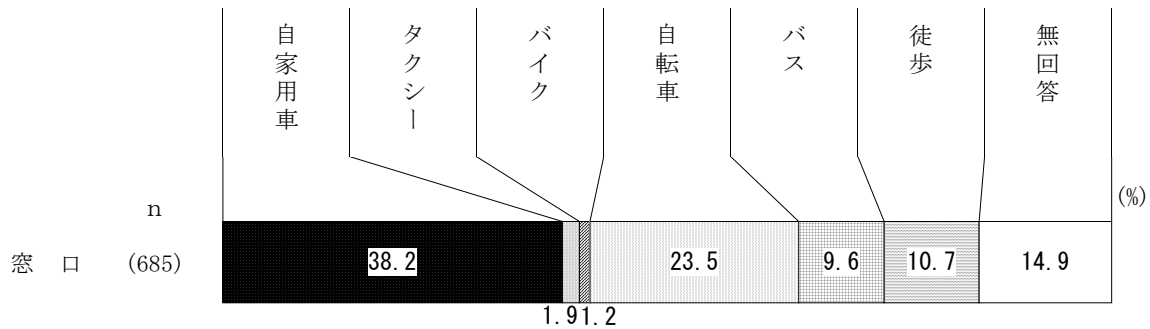


## 4. 現在の市庁舎までの主な交通手段

問7 交通手段（問5で「ほとんど訪れない」を選択された場合には、仮に訪れるとした場合の交通手段）をご回答ください。

（1）現在の市庁舎までの主な交通手段は、何ですか。（○は1つ）

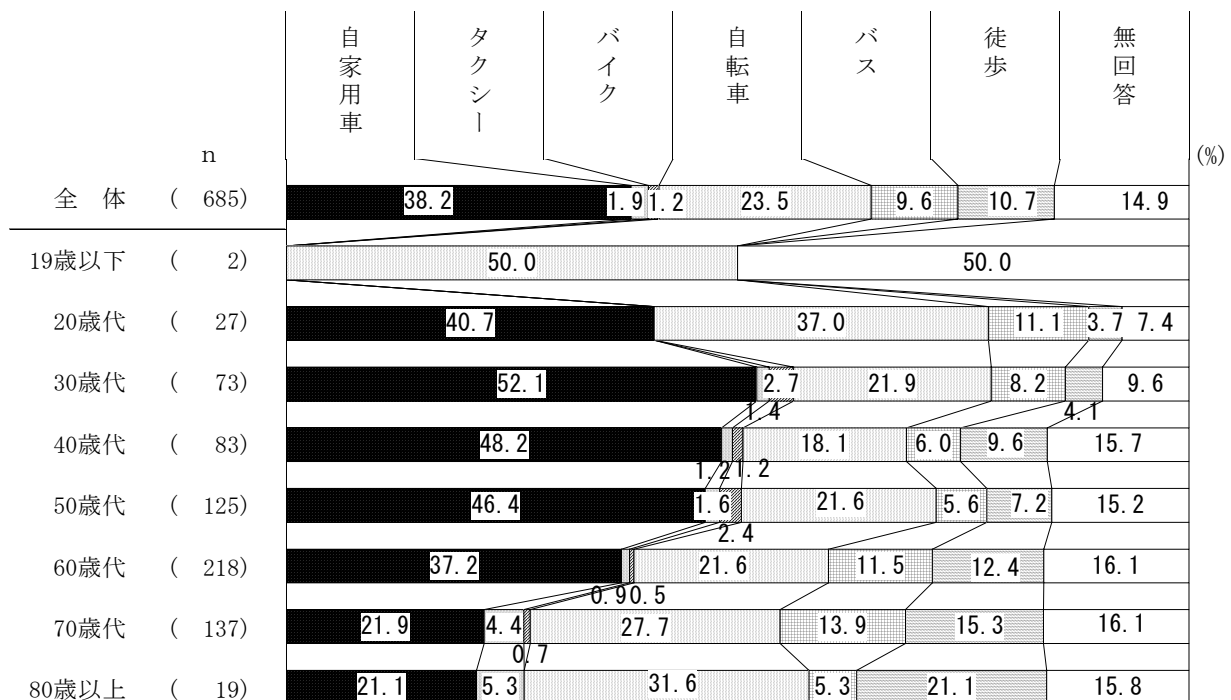
図表4-1



現在の市庁舎までの主な交通手段は「自家用車」が38.2%と多く、「自転車」が23.5%で続いている（図表4-1）。

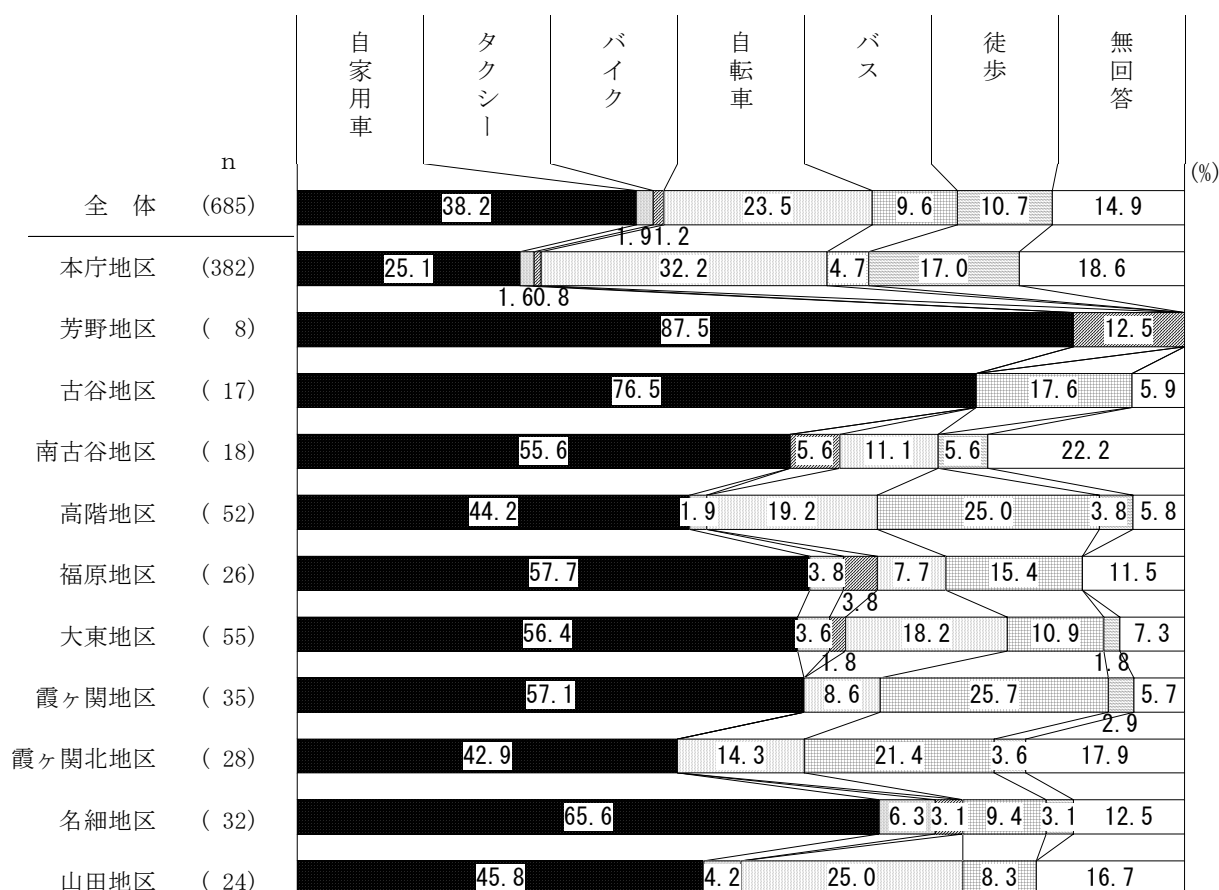
年齢別でみると、「自家用車」は30歳代で半数以上を占めており、以降年代があがるとともに割合が少なくなっている。「自転車」も各年代で一定数を占めており、特に70歳代では3割弱となり、「自家用車」を上回っている（図表4-2）。

図表4-2 年齢別 現在の市庁舎までの主な交通手段



地区別で見ると、全体的に回答者数が少ないため参考程度となるが、ほとんどの地区で「自家用車」が多く、本庁地区では「自転車」(32.2%)が比較的多くなっている。また、霞ヶ関地区、高階地区、霞ヶ関北地区では「バス」が2割台と比較的多くなっている(図表4-3)。

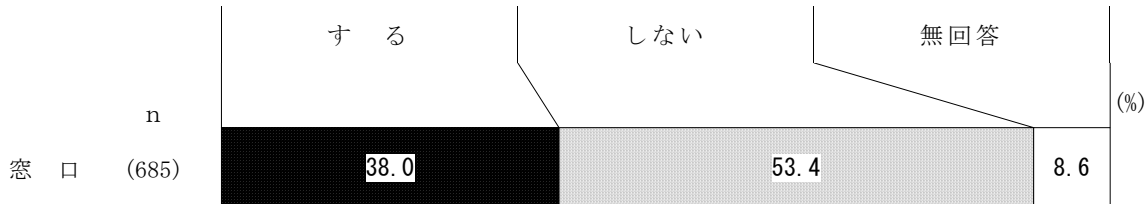
図表4-3 地区別 現在の市庁舎までの主な交通手段



## 5. 市庁舎を川越駅西口に移転した場合の電車やバスの利用

(2) 市庁舎を川越駅西口に移転した場合、電車やバスをご利用されますか。  
(○は1つ)

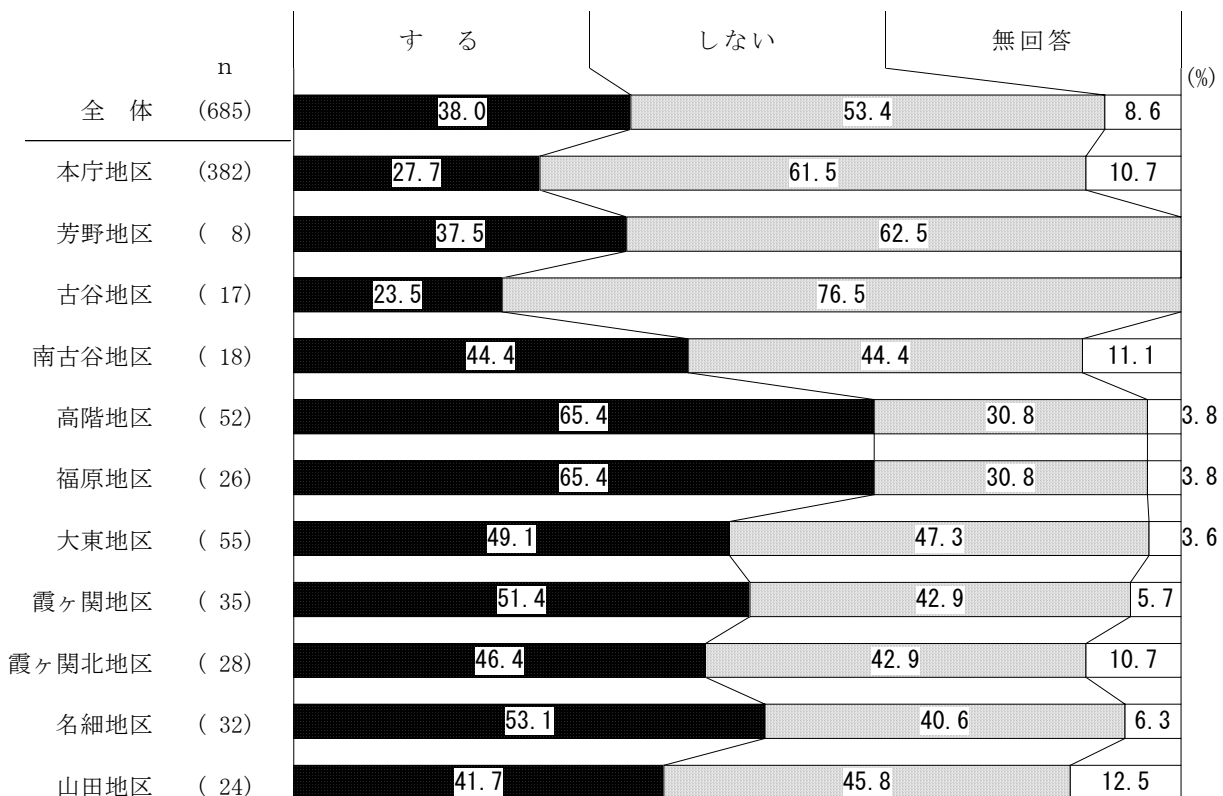
図表 5 - 1



市庁舎を川越駅西口に移転した場合の電車やバスの利用を「する」は38.0%、「しない」は53.4%となっており、利用しない人が利用する人を15ポイント上回っている(図表5-1)。

地区別で見ると、全体的に回答者数が少ないため参考程度となるが、「しない」は本庁地区(61.5%)をはじめ、古谷地区、芳野地区、山田地区で「する」を上回っている。一方、高階地区や福原地区では「する」が6割以上を占めている(図表5-2)。

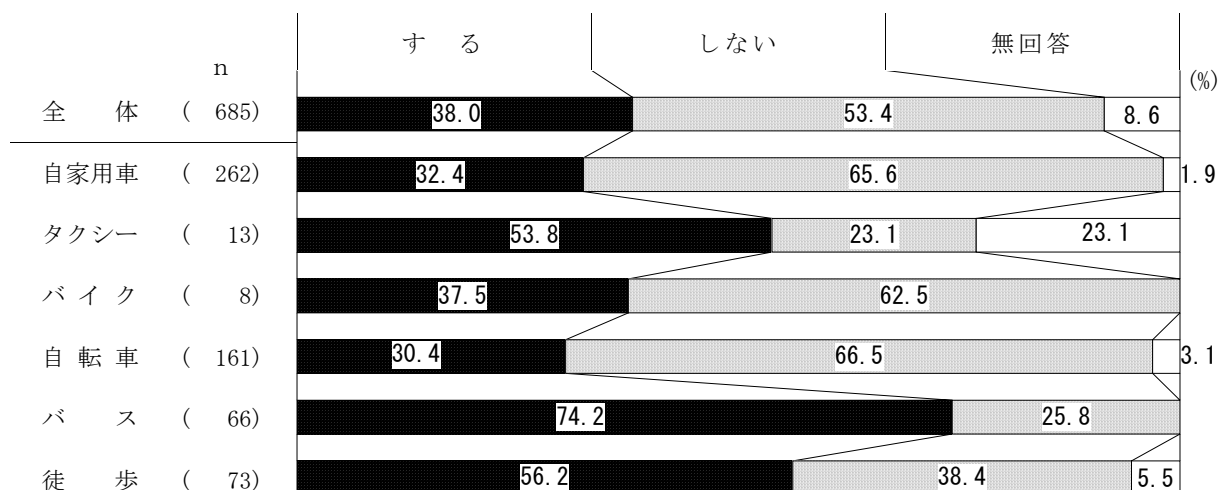
図表 5 - 2 地区別 市庁舎を川越駅西口に移転した場合の電車やバスの利用



現在の市庁舎までの主な交通手段別でみると、現在、自家用車を利用している人は「する」が32.4%となり、3割程度の人が公共交通機関の利用意向を示している。

この他の「する」に着目すると、バスが7割を超え、徒歩でも半数以上と多くなっている（図表5-3）。

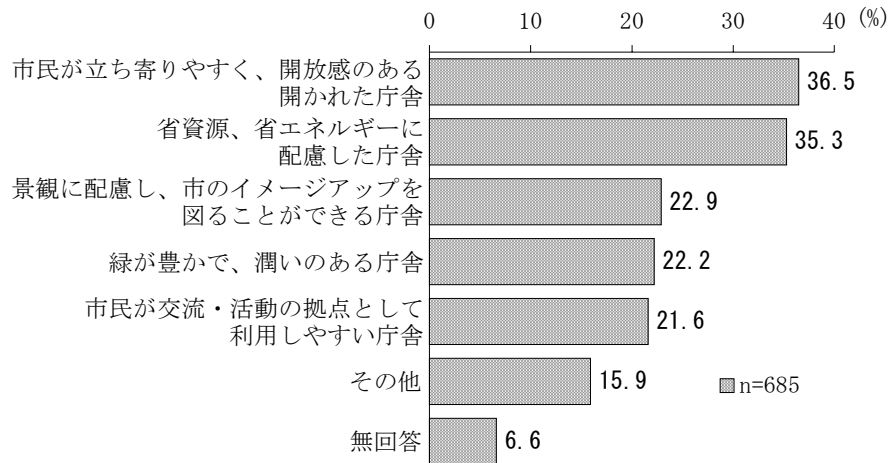
図表5-3 現在の市庁舎までの主な交通手段別  
市庁舎を川越駅西口に移転した場合の電車やバスの利用



## 6. 新しい市庁舎の望ましいイメージ

問8 新しい市庁舎は、どのようなイメージが望ましいと思いますか。  
(○は2つ以内)

図表6-1



新しい市庁舎の望ましいイメージは、「市民が立ち寄りやすく、開放感のある開かれた庁舎」(36.5%)、「省資源、省エネルギーに配慮した庁舎」(35.3%)が3割台で多くなっており、以下、「景観に配慮し、市のイメージアップを図ることができる庁舎」(22.9%)、「緑が豊かで、潤いのある庁舎」(22.2%)、「市民が交流・活動の拠点として利用しやすい庁舎」(21.6%)が2割台で続いている(図表6-1)。

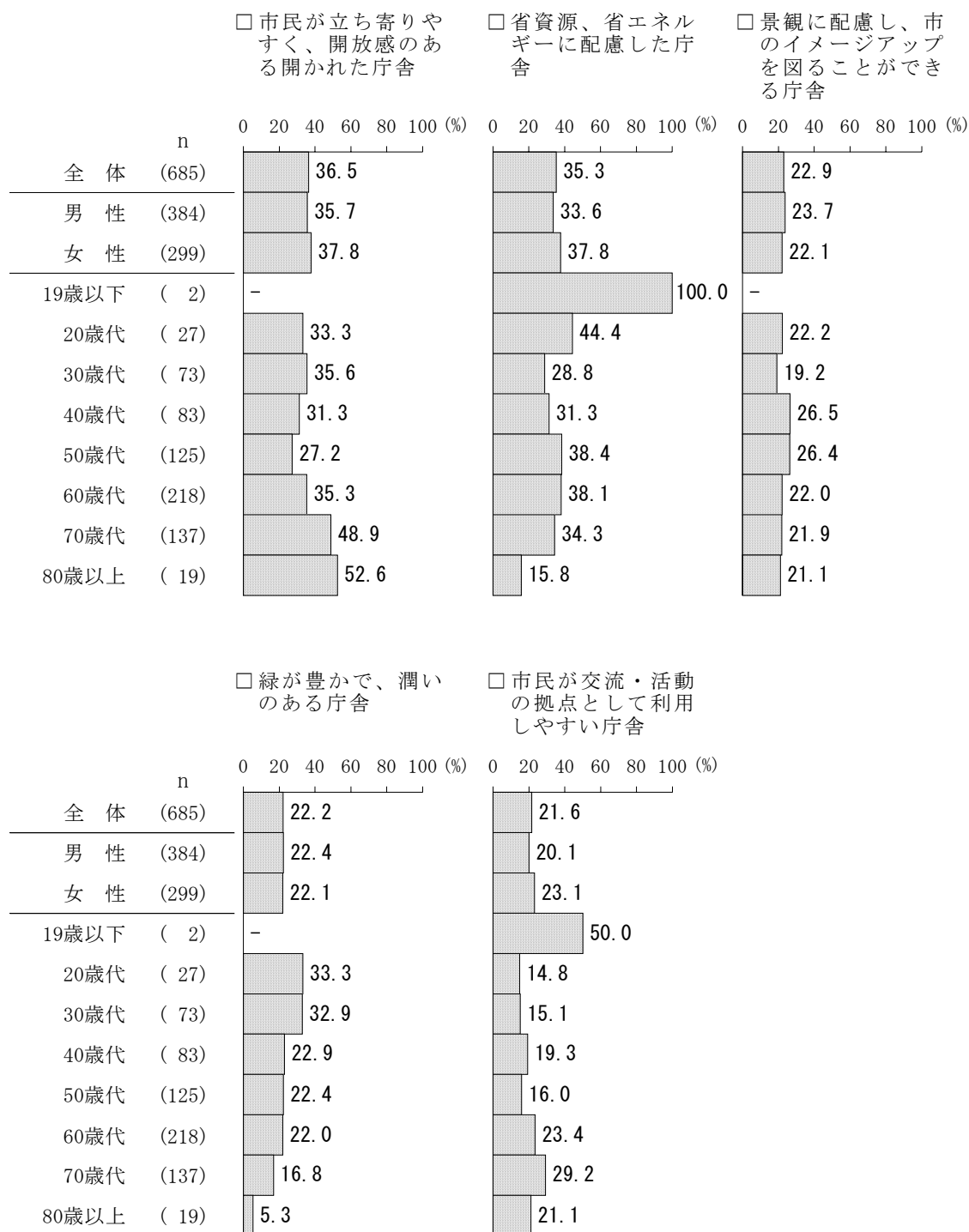
なお、「その他」の主なものとしては、“できるだけ予算を抑えシンプルで、使いやすいものがよい”、“バリアフリーへの取り組みの見えるもの”、“旧市内のイメージ、小江戸川越らしさ”、“100年使えるものを”などがあげられている。



性別でも大きな違いはないが、「省資源、省エネルギーに配慮した庁舎」は女性（37.8%）が男性（33.6%）を4ポイント上回っている。

年齢別では、「市民が立ち寄りやすく、開放感のある開かれた庁舎」は特に高齢者で多く、「省資源、省エネルギーに配慮した庁舎」は50歳代と60歳代を中心に多くあげられている。「緑が豊かで、潤いのある庁舎」は20歳代と30歳代で比較的多い（図表6-2）。

図表6-2 性別、年齢別 新しい市庁舎の望ましいイメージ

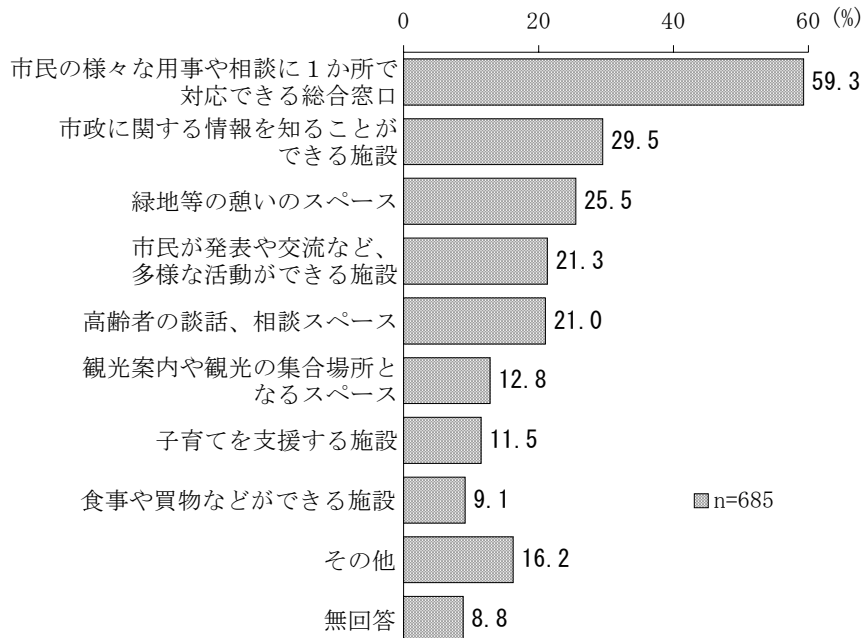


## 7. 新しい市庁舎に望む機能や施設

問9 新しい市庁舎にあるとよい機能や施設は何だと思いますか。

(○は3つ以内)

図表7-1



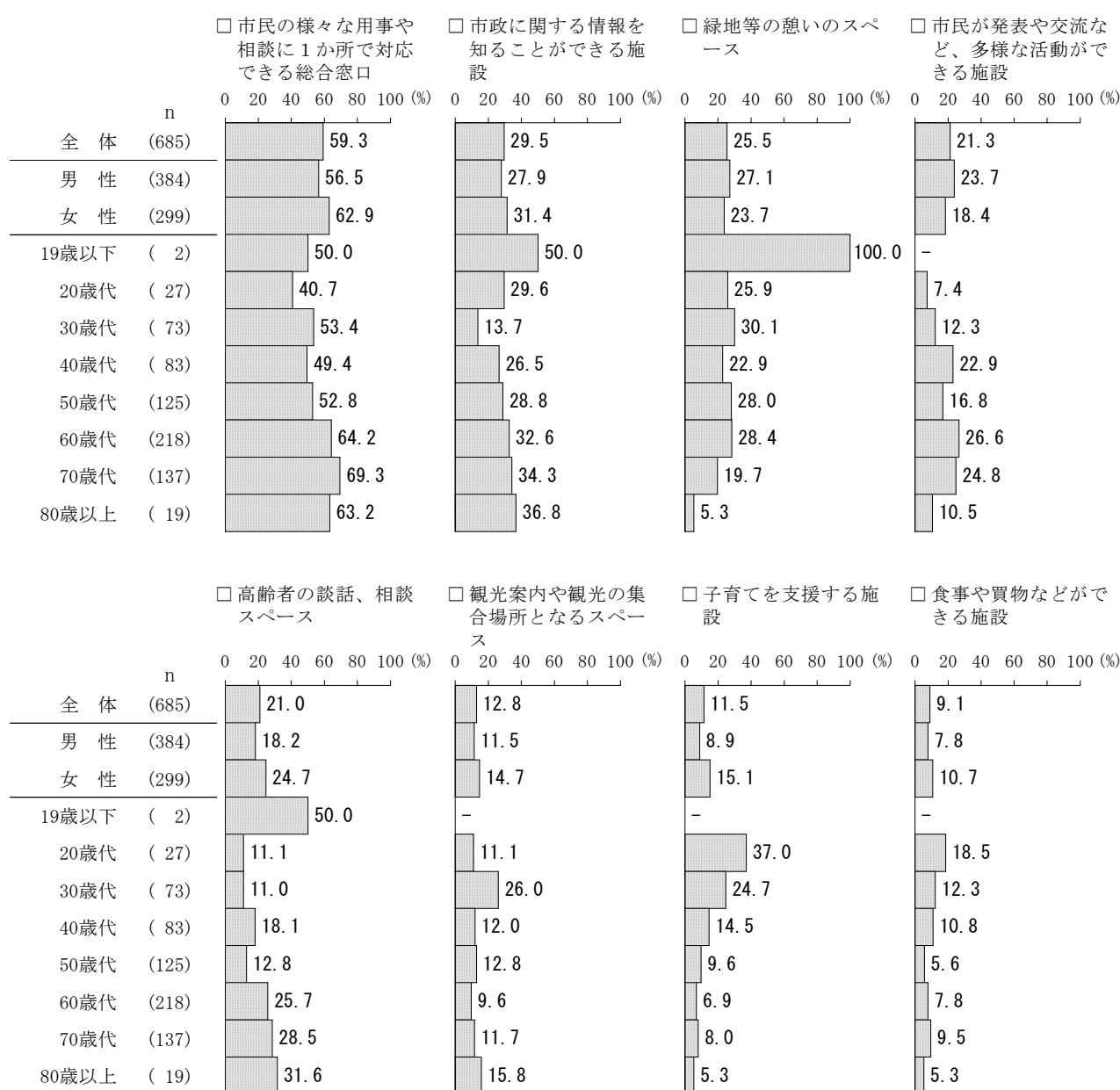
新しい市庁舎に望む機能や施設は、「市民の様々な用事や相談に1か所で対応できる総合窓口」が59.3%と特に多く、以下、「市政に関する情報を知ることができる施設」(29.5%)、「緑地等の憩いのスペース」(25.5%)、「市民が発表や交流など、多様な活動ができる施設」(21.3%)、「高齢者の談話、相談スペース」(21.0%)が2割台で続いている(図表7-1)。

なお、「その他」の主なものとしては、“付属の機能はいらない・必要最小限のものでよい”、“駐車場”などがあげられている。

性別でみると、「高齢者の談話、相談スペース」（女性24.7%：男性18.2%）は7ポイント、「市民の様々な用事や相談に1か所で対応できる総合窓口」（女性62.9%：男性56.5%）は6ポイント女性が男性を上回っている。

年齢別でみると、「市民の様々な用事や相談に1か所で対応できる総合窓口」はいずれの年代からも最も多くあげられており、年代があがるとともに割合が多くなる傾向がある。また、「市政に関する情報を知ることができる施設」や「高齢者の談話、相談スペース」も年代があがるとともに割合が多くなる傾向がみられる。一方、20歳代と30歳代からは「子育てを支援する施設」が多くあげられている（図表7-2）。

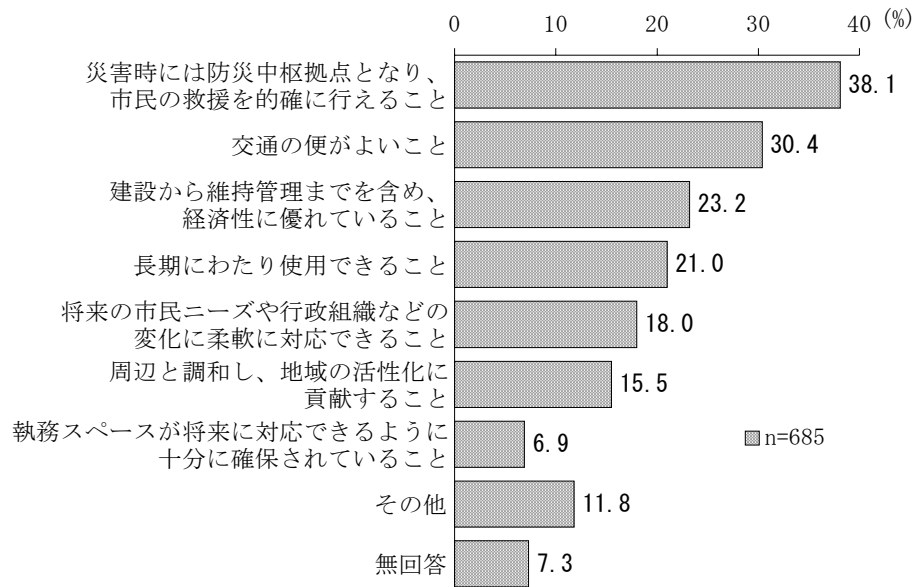
図表7-2 性別、年齢別 新しい市庁舎に望む機能や施設



## 8. 新しい市庁舎の建設で重視すべきこと

問10 新しい市庁舎を建設する場合、重視しなければならないことは何だと思いますか。(○は2つ以内)

図表 8 - 1



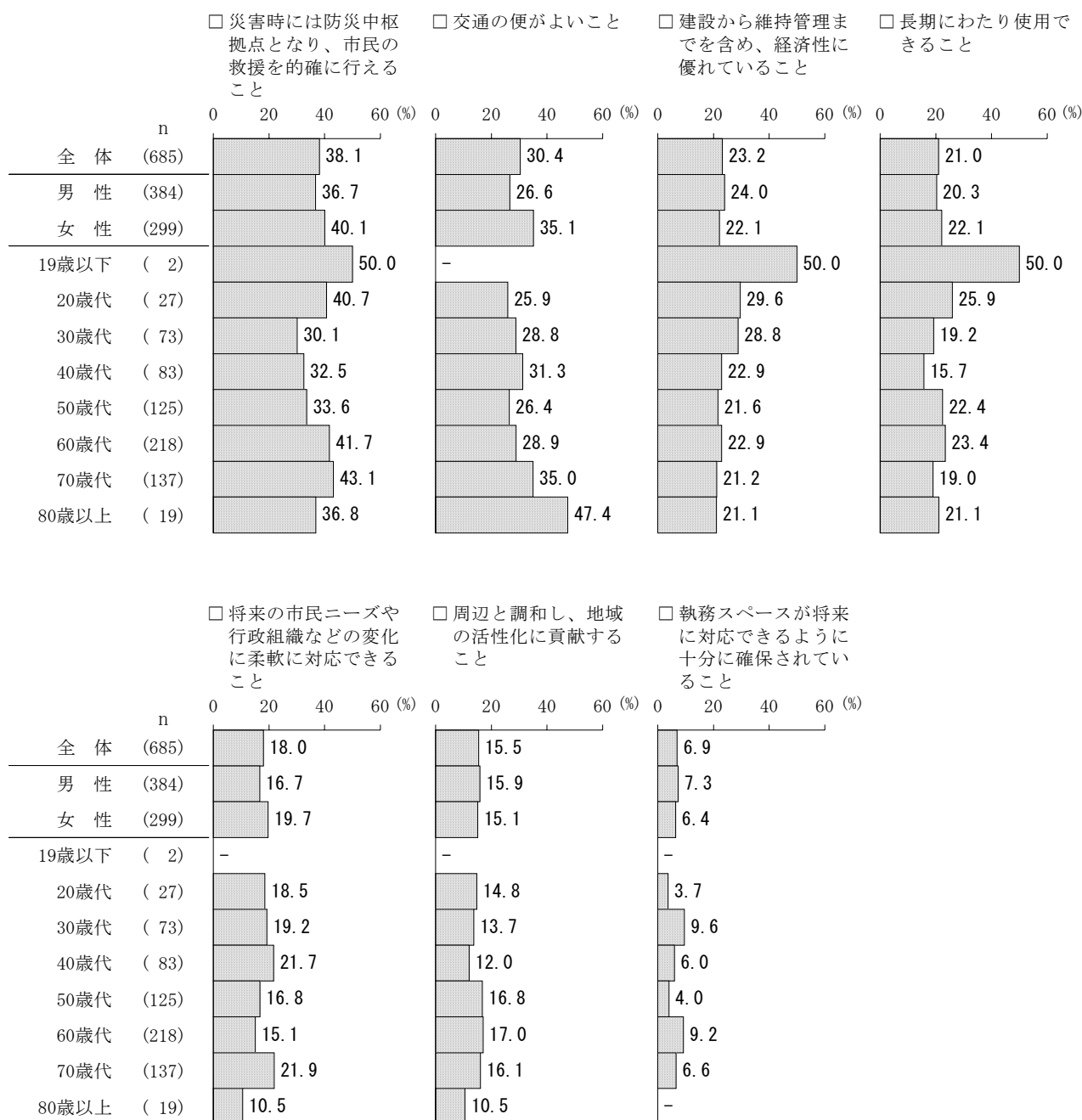
新しい市庁舎の建設で重視すべきことは、「災害時には防災中枢拠点となり、市民の救援を的確に行えること」が38.1%で最も多く、「交通の便がよいこと」が30.4%でこれに続いて多くなっている。以下、「建設から維持管理までを含め、経済性に優れていること」(23.2%)、「長期にわたり使用できること」(21.0%)が2割台で続いている(図表8-1)。

なお、「その他」の主なものとしては、“建設・維持のコスト”、“現状維持・今のままでよい”などがあげられている。

性別でみると、男女とも「災害時には防災中枢拠点となり、市民の救援を的確に行えること」が最も多い。「交通の便がよいこと」は女性（35.1%）が男性（26.6%）を9ポイント上回っている。

年齢別でみると、「災害時には防災中枢拠点となり、市民の救援を的確に行えること」は広い年代から支持を得ている。「交通の便がよいこと」は70歳代など高齢層でより多くなっている（図表8-2）。

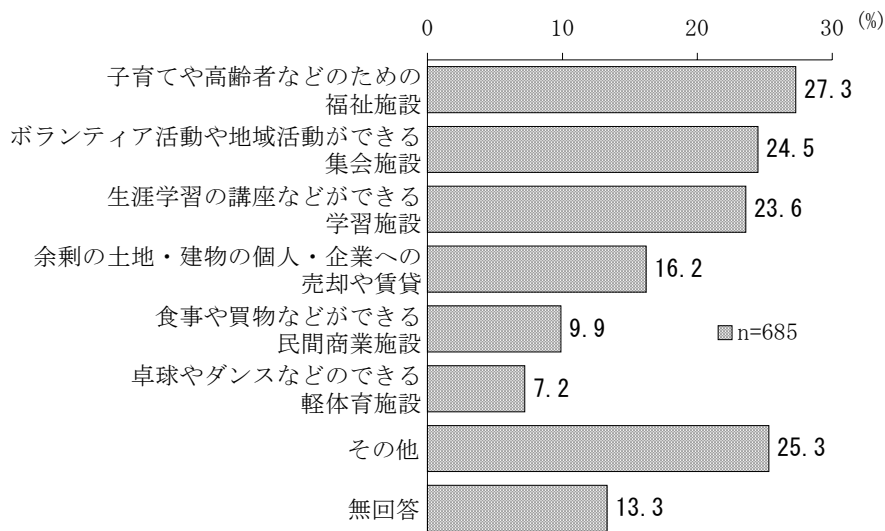
図表8-2 性別、年齢別 新しい市庁舎の建設で重視すべきこと



## 9. 移転後の現在の市庁舎の活用

問 11 市庁舎を移転した場合には、現在の市庁舎に市役所の窓口機能を残し、観光拠点等として有効活用を図るよう検討していく予定ですが、それ以外にどのように活用したらよいと思いますか。(〇は2つ以内)

図表 9 - 1



移転後の現在の市庁舎の活用は、「子育てや高齢者などのための福祉施設」が27.3%で最も多く、「ボランティア活動や地域活動ができる集会施設」(24.5%)と「生涯学習の講座などができる学習施設」(23.6%)が2割台で続いている(図表9-1)。

なお、「その他」の主なものとしては、“移転反対・そのまま市役所として活用”、“駐車場”、“公園”などがあげられている。

性別で見ると、「子育てや高齢者などのための福祉施設」(男性25.0%：女性30.4%)や「生涯学習の講座などができる学習施設」(男性21.9%：女性26.1%)は女性でより多くあげられている。一方、「ボランティア活動や地域活動ができる集会施設」は男性(26.3%)が女性(22.4%)を上回っている。

年齢別で見ると、「子育てや高齢者などのための福祉施設」は70歳代で4割弱となるなど、特に高齢者で多くなっている。「ボランティア活動や地域活動ができる集会施設」は40歳代、60歳代、70歳代で比較的多く、「生涯学習の講座などができる学習施設」は40歳代を境に年代があがるとともに割合が多くなり、70歳代では3割台となっている(図表9-2)。

図表9-2 性別、年齢別 移転後の現在の市庁舎の活用

